

## 胃静脈の流入変異について：解剖

宮 木 孝 昌

東京医科大学人体構造学（旧解剖学第1講座）

### はじめに

胃静脈に流入変異があることは、すでに臨床解剖研究会においても報告されている（松井2003, 宮木ほか2002, 2006）。胃腸の中で、胃には小弯側を走る左右の胃静脈と大弯側を走る左右の胃大網静脈とがある。一般に、右胃静脈は肝十二指腸間膜の中で門脈幹に流入し、左胃静脈が噴門部の近くで胃脘ヒダの中に入って腹壁に沿って走り、門脈幹、脾静脈あるいは門脈幹と脾静脈の合流部に流入している（佐藤1993, 宮木, 伊藤2006）。ところが、左右の胃静脈が小網の中を通過して直接肝門の中に進入していくことがある（Fig. 1）。これが胃静脈の流入変異である。

### 右胃静脈

正常例では、右胃静脈は幽門部付近で肝十二指腸間膜を通過して門脈幹に合する。変異例では、右胃静脈は門脈幹に伴行して肝門の中に進入している（Fig. 2A, 宮木, 伊藤2006）。肝内では、右胃静脈は、①門脈の左枝に流入しているものと、②局限して門脈網を形成しているもの、とがあった（Fig. 2B）。

### 左胃静脈

正常例では、左胃静脈は噴門部で胃脘ヒダを通過して後腹壁に入り、脾静脈あるいは門脈幹に流入する。変異例では、左胃静脈は噴門部で肝胃間膜に入って、広義の肝門の左端から肝臓に進入している（Fig. 3A）。肝内では、左胃静脈は、①門脈左枝から起こる左葉の枝あるいは尾状葉の枝に流入するものと、②左葉の一部で限局的に門脈網に終わるもの、とがあった（Fig. 3B, Miyaki et al 1987, 宮木, 坂井2001, 2002, 宮木2003）。また、正常例と変異例の形態が共存するもの

もあった（宮木2003）。これは左胃静脈が噴門部で2つの静脈に分岐して、1つの静脈は胃脘ヒダを通過して後腹壁に入り脾静脈に流入しており、他の1つの静脈は肝胃間膜の中に入り、広義の肝門から肝臓に進入しているものであった。

### 胃静脈の流入変異はなぜ起こるか

胃腸の血管系の中で、かつて胃冠状静脈と呼ばれた胃静脈は、胃の小弯側にあつて、ほかの消化管にはみられないものである。胃静脈が胃と肝臓を結んでいる小網（肝胃間膜と肝十二指腸間膜）を通過して、直接肝臓に進入するという胃静脈の流入変異は、胃静脈と肝臓との位置的関係から起こりうる状態といえるし、さらに、胃静脈が腸下静脈由来の静脈の存続であるという考え（三木1973）を採り入れることにより説明することができる。

### 文 献

- 1) 三木成夫：特別講演，胃の血管系の Genese について．日消外誌 6: 2-4, 1973
- 2) Miyaki T, Yamada M, Kumaki K: Aberrant course of the left gastric vein in the human. Possibility of a persistent left portal vein. Acta Anat (Basel) 130: 275-279, 1987

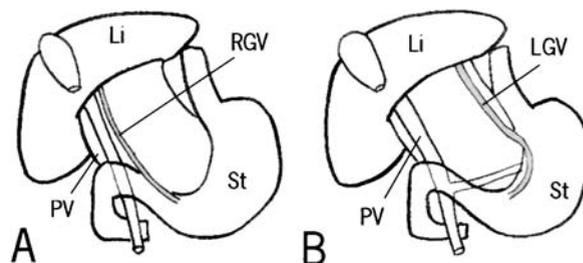


Fig. 1 Diagrams of aberrant right (figure A, RGV) and left (figure B, LGV) gastric veins  
Li: liver, PV: portal vein, St: stomach

